

西アフリカにおけるイスラ ムの がり（3/3）：カネム ボルヌ帝国、ハ

:

明:

サハラ以南の西アフリカ地域において、いかにイスラ ムが まり、 大な文明が かれ、 地民を多神教から唯一神への崇 へと いたかについて。第三部：カネム ボルヌとハウサ フラニ帝国の 史。

目:[事イスラ ムの 史](#)

より: A ラフマ ン I ドイ教授

日 02 Jan 2012

集日 02 Jan 2012

カネム ボルヌ帝国におけるイスラ ム

13世 のカネム ボルヌの 地は、南はチャド湖周 地から、北はフェザ ンにまで しました。今日、カネムはチャド共和国の北部に位置しています。1085 1097年の に支配した、カネムの 政者ウメ ジルミ によって、カネム ボルヌにイスラ ムをもたらしたムハンマド マニという学者を介し、初めてイスラ ムは受容されました。ウメ ジルミ は敬虔なムスリムになりました。彼は巡礼の旅に出ましたが、マッカに到着する前にエジプトで死去しました。また、アル=バクリ はアッバ ス朝によって 清の危 に ったウマイヤ朝の避 民がバグダ ドから逃れて定住した土地がカネムであったと言及しています。 [21, 22]

カネムにおけるイスラ ムの がりにより、中央ス ダンではムスリムの影 力が し、中 のアラブ世界、そしてマグリブとの が かけました。ウメの息子、ドゥナマー一世（1092 1150）も巡礼を果たし、マッカへの三度目の旅ではスエズ 河に向かう途中のエジプトで王冠を授けられています。 史家イブン ハルドウ ン（1406没）が言及するように、ドゥナマニ二世（1221 1259）の 治期である1257年 には、チュニジアにカネム大使 が 置されました。それとほぼ 期を同じくして、マドラサ イブン ラシ クという宿泊施 付属の大学がカ

イロに出来ました。13世末になると、カネムはイスラーム学の中心地となり、著名な教
たちが教のためマリからカネムへとやってきました。13世中には、カネムは（アルジ
ェリアのサハラ地）トゥアトとの外交、そしてチュニスのハフサ朝との大使レベルの
をきました。カネムの学者や人たちは、非常に高水の古典アラビアをくことが出来た
と言われていました。1391-1392年におけるカネム法廷のによる手から、そのを出すこと
が出来ます。

史家イブンハルドゥンは、ドゥナマ二世を「カネムの王、ボルヌの主」と呼んでいま
す。なぜなら、彼の帝国は西はカノ、北はワダイにまで大したからです。ドゥナマ二世
は人々によって神格化されていたタリスマン（ムンニ、またはムニ）を切りいたため、受
の代をもたらしたと言われました。彼はイスラームへの情から、この「忌まわしき行」
を行ったのです。タリスマンは地的かつ神なシンボルであり、彼は国民の多くから反感
をったのです。

14世末、1476-1503年のを治したアリドゥナマ、（名アリガズィ）によって、カネム帝
国の新首都がボルヌのニガザラガムに置されました。繁をめたこの首都は、1811年ま
で存しました。アリはイスラームをさせ、イスラーム学の学に没しました。彼はイマムウ
マルマスランバをれ、イスラーム法も学しました。また彼は自らの模によって、族や首
たちの妻を四人までに制限するよう得しました。

ボルヌのイスラーム化は、マイイドリスアルマ（1570-1602）の代にさかのぼります。私
たちは、年代者のアフマドブンファルトゥワを通して彼のことを知ります。9年に渡る
治において、彼はマッカへ巡礼し、そこにボルヌからやってくる巡礼者たちのために
易宿泊所を建てました。彼はイスラームの践をさせ、人々にそれらを遵守させました。
また、彼はカディ法廷を立し、来の法に代わってイスラーム法を入したのです。また彼
は、既存ので出来たモスクを瓦のモスクとして建て替えました。

1810年、マイアフマドの代にボルヌ帝国の光は焉を迎えましたが、イスラーム学の中心
地としての重要性は存したのです。

ハウサ フラニにおけるイスラ ム

ハウサ建国に し、カネム ボルヌに移住したベグ出身のバヤジダ（バヤズィ ド）にまつわるハウサの があります。当 のボルヌにおけるマイの 政者はバヤジダを 迎し、自分の娘を娶らせましたが、彼の追 者の 数からは略 を受けたため、彼は妻と共にマイを れ、ガヤ マイ カノに辿り着き、カノの金匠に を造らせました。 では、井 からの水の汲み上げを阻んでいた大蛇をバヤジダは し、カノの人々を助けたことになっています。そして、ダウラと呼ばれた女王が感 の 持ちとして彼と 婚したとされます。バヤジダはこの婚からバオと名付けられた子供を授かり、その バオにはビラン、ドクラ、カツィナ、ザリア、カノ、ラノ、ジェビルと名づけられた7人の子供ができ、彼らはハウサ国の 者になったとされます。この の信 性はどうか、ナイジェリア北部のハウサ とその文化がいかに始まったかという 明が みられています。

イスラ ムは14世 にハウサの土地に まりました。およそ40人のワンガラワ 民たちが、アリ ヤジによる1349 1385年のカノ 治 代にもたらしたとされています。モスクが建 され、アザ ン（礼 始の呼びかけ）を行うムアッズィン（呼びかけ人）、そして宗教裁定を下す裁判官が任命されました。ヤアク ブという 政者の 治期（1452 1463）には、あるフラニ人がカノへと移住し、イスラ ム法の 物を 介しました。ムハンマド ルムファの 治期（1453 1499）になると、イスラ ムはカノにおいてしっかりと根ざしていました。彼の 治期にムスリム学者たちはカノを れましたが、一部はイスラ ムを 道するためトンブクトゥからも したのです。

ムハンマド ルムファは、政策についてムスリム学者たちの指 を仰ぎました。彼こそが、著名なムスリム神学者アル＝マギッリ が15世 にカノを れた に、イスラ ム政治についての本を くよう求めた人物でした。その本は名高い名著であり、「君主の 」と 打たれています。アル＝マギッリ は にカツィナへと出向き、そこは15世 における学 の地となりました。神学 が 源学 などを携えたトンブクトゥのサンコレ大学の学者たちも同 にそこを れていました。13世 には、ムハンマド ダン マリナや、ムハンマド ダン マスィナ（1667没）などといった、今日も著作の残されている 地出身の学者たちをカツィナは 出し

ています。

シェイフ ウスマ ン ダン フォディオ、また彼の兄弟アブドッラ 、そしてその息子ムハンマド ベロによる文学作品は、18世 末におけるハウサ フラニの混合主 的 践について 述されています。ウスマ ン ダン フォディオによる1904年の は、シェイフによってビドア アッ=シャイタ ニ ヤ（ 魔の宗教革新）と呼ばれた混合主 を排除するためのイスラ ム 主 として 介されました。

アフリカにおけるイスラ ムの まりは、その一部がここで述べられたように、 史的、地理的、心理的な部分、またムスリム共同体の分布などの多くの要素がからんでいました。アフリカにおける最初の出 以来、イスラ ムは 大し けて、その当初から 地の学者たちは皆アフリカ人でした。イスラ ムはアフリカに根ざした宗教となり、そこにおいて 多 多 な影 を与えてきたのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/302>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2024 IslamReligion.com. 断 を禁じます。